



筑波大学メールマガジン ペデジャーなる 2022年 冬号

OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX



1. 『筑波大学雪景色』 / 天野隼太
筑波山麓を散策

2. 『あたりまえではなかった…。キャンパス内を走るバス』 / 山田優芽
関東鉄道バス 減便と定期券の値上げ

3. 『コロナ禍におけるサークル活動』 / 磯良春佳
「まん延防止等重点措置」の適用に伴う団体活動停止

4. 『ペデの今 課題と展望』(下) / 西村大祐
ペデの交通集中 救世主はループ道路の歩道？

5. 『大学周辺でできる初詣』 / 中村瑞歩
一ノ矢八坂神社への初詣





1. 『筑波大学雪景色』

立春が過ぎ、暦の上では春になりましたが、まだまだ寒い日が続いていますね。つくば市は、連日 10℃に届くか届かないかくらいの気温で、外出するのもおっくうになってしまいます。そんな中で先月 1 月 7 日、逆に外出が楽しみになる出来事がありました。それは、つくば市に雪が降り、一面銀世界になったことです。

雪は 1 月 6 日の午前 11 時ごろから降り始めました。時間がたつにつれ、地面や屋根の上に段々と積もるようになってきました。降る雪を窓から眺めていた私は、胸の高まりを抑えることができませんでした。なぜなら、「住んでいる地域に雪が降ってきた」という経験が生まれて初めてだったからです。私の出身地である静岡県静岡市は、めったに雪が降りません。気象庁によると、同市の平野部で最後に積雪を記録したのは、今から 21 年前の 2001 年 2 月。20 歳の私は、ぎりぎりそれを経験することができませんでした。そのため“未知なるもの”である雪を見ると、童心に帰ったようにはしゃいでしまいます（静岡市の平野部に住む大抵の人は、雪を見ると私と同様の気持ちを抱くと思います）。つくば市で初めての雪を経験した 1 月 6 日も、1 日中気持ちは高ぶり、次の日どれくらい積もるのかを楽しみにして寝ました。

そして迎えた 1 月 7 日。起床後に窓を見ると、雪はやみ、雲一つない快晴でした。そしてそこには、一面が雪に覆われた、白銀の世界が広がっていました。その景色を見て、いてもたってもいられなくなった私は、すぐに身支度を整え、筑波大の雪景色を見に行くことにしました。自転車に乗って大学に向かいましたが、慣れない雪道はとても滑り、転ばないように恐る恐るペダルを漕いだことを鮮明に覚えています。

大学到着後は、自転車から降り、歩いて大学の雪景色をめぐることにしました。松美池を出発し、ループ道路に沿って一の矢学生宿舎を目指します。到着後は石の広場を通過してスタート地点に帰るルートです。道中では、たくさんの美しい場面に遭遇しました。この記事では、そのうちの三つをみなさんに紹介したいと思います。

①松美池

松美池に到着したのは、朝 8 時ごろ。水面には薄氷が張り、空の澄み切った青色を反射していました。そして、池の周りを囲む木々には雪が積もり、空と水面の青色と木々の雪の白色が鮮やかなコントラストをなし、とても美しい場面を作り出していました。また、薄氷の上を歩くカモたちを見ると、心が癒されます。水面から薄氷の上に乗れり、水を振り払うために体をブルブル振り払う姿は、とても可愛らしかったです。



水面に建物が反射する松美池
(2022年1月7日筆者撮影)



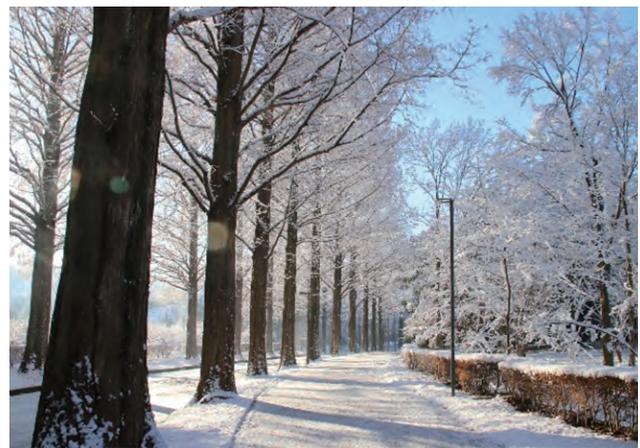
薄氷の上を歩く鴨たち
(2022年1月7日筆者撮影)

②一の矢学生宿舎周辺

本部棟を通り過ぎ、一の矢学生宿舎手前の信号までやって来ました。宿舎に続くループ道路は、脇に植えられた美しいメタセコイア並木が有名ですね。この日は、いつもとは違う、雪化粧した姿で迎えてくれました。信号を渡り、並木の中に入ると、見渡す限りの雪景色となり、雪のトンネルをくぐっているような気持ちになりました。ここが筑波大であることを忘れ、どこか遠くの、自然公園の中を歩いているかのように何度も錯覚しました。



雪をかぶったメタセコイア並木 (左上)
(2022年1月7日筆者撮影)



宿舎に続く雪のトンネル (右上・下)
(2022年1月7日筆者撮影)

③石の広場

一の矢学生宿舎に到着後は、ループ道路からそれ、ペDESTリアンデッキを通過して石の広場を目指して歩きました。第二エリアと第三エリアの建物が見えてくると、地面の材質もアスファルトからレンガに変わっていきます。時刻は朝9時を迎え、日が昇ってくると、積もった雪も徐々に溶け始め、サラサラした粉雪からガリガリした氷に変化していきました。氷になると滑るので、転ばないように踏み場を選びながら少しずつ進んでいきます。ふと下に目をやると、第二エリアと第三エリアを隔てる、通称「天の川」が目に入りました。筑波大学新聞第364号の「筑波発！キャンパスことば」によると、女子学生が多い学類（比較文化学類や生物学類など）が置かれる第二エリアと、男子学生が多い学類（工学システム学類や応用理工学類など）が置かれる第三エリアを隔てることから、それぞれを七夕の彦星と織姫に例え、そう呼ばれるようになったそうです。小川には薄氷ではありますが氷が張り、川が凍れば二人は会えるかもしれませんね。

少し歩くと、噴水が見えてきました。石の広場と噴水の間にある芝は、雪で一面が白くなっていました。噴水脇の階段を上り、やっと石の広場に到着です。地面の雪の多くは溶けていましたが、大変興味深いものを見ることができました。広場には天を仰ぐようなポーズをとるブロンズ像（正式名称「Miserere XVII」）がありますが、日当たりのせい、肩の上にだけタオルをかけているように雪が乗っていました。雪が降った時にしか見られない、珍しい光景なのではないでしょうか。



雪の積もった芝
(2022年1月7日筆者撮影)



雪を背負ったブロンズ像
(2022年1月7日筆者撮影)

石の広場で少し休憩後、スタート地点の松美池に帰ってきました。時刻は10時手前で、出発した時刻が8時ごろだと考えると、本当にあっという間に感じました。今回の散策を通し、いつもとは一味違う、雪化粧した筑波キャンパスを見ることができました。その景色はどれも美しく、惚れ惚れするものばかりです。また、景色だけではなく印象深い場面にも遭遇しました。それは一の矢学生宿舎前のバス停付近を歩いていたら時です。バスに乗ろうとした一人の女性が雪に滑って転んでしまいました。すると、別の女性がすぐに手を差し出し、起き上がる手伝いをしていま

した。2人は笑顔でバスに乗り込んでいきました。とても寒い朝ではありましたが、女性の思いやりを感じ、とても心が温かくなった瞬間でした。また、歩いていると、道路の脇のいたるところに雪だるまがありました。最小のものは、押しボタン式信号機の押しボタンの上にいました。雪にはしゃいでいるのは私だけではないのだと、雪だるまを作った人たちの姿を勝手に想像し、思わず笑ってしまいました。

最後に、記事の冒頭で立春の話を出しましたが、これから筑波キャンパスも、少しずつ春の装いをしていくのでしょうか。春が終われば、夏の姿、夏が終われば秋の姿、そして秋が終われば冬の姿と、キャンパスは四季折々にその姿を変化させます。次の冬も、また雪化粧したキャンパスを散策することを、心から楽しみにしています。



転んだ人に手を差し出す人
(2022年1月7日筆者撮影)



押しボタンの上にいた雪だるま
(2022年1月7日筆者撮影)

参考記事

朝日祥之「筑波発！キャンパスことば」、『筑波大学新聞』2021年7月19日付, 364(10)

< <https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/364.pdf> >

(2021年2月6日最終閲覧)

(人文・文化学群 比較文化学類 2年 天野隼太)

2. あたりまえではなかった…。キャンパス内を走るバス



筑波大学のキャンパス内には関東鉄道の路線バスが走っており、キャンパス内の移動や、キャンパス内を抜けてつくばセンター（つくば駅）、その先の土浦駅、荒川沖駅、ひたち野うしく駅方面への移動が可能です。毎年発行される定期券を買えば、購入日から年度末まで、筑波大学循環バスなど学内に乗り入れている関東鉄道の路線バスが乗り放題になります。この制度は、「キャンパス交通システム」と呼ばれます。

しかし、昨年12月から今年1月にかけて、キャンパス内を走るバスに二つの大きな変化がありました。

ダイヤ改正による筑波大学中央―土浦駅、荒川沖駅、ひたち野うしく駅間のバスの減便と、キャンパス内を走る路線バス「キャンパス交通システム」の定期券の大幅な値上げです。

■キャンパス内を走るバスの減少

土浦駅、荒川沖駅、ひたちのうしく駅―筑波大学中央間はそれぞれつくばセンターを経由してバスが走っています。しかし昨年12月にダイヤ改正がなされ、多くの便がつくばセンター止まりとなり、各駅とキャンパス内を直通する便が大幅に減りました。

特に減便数が多かったのが筑波大学中央と土浦駅を結ぶバスです。筑波大学中央発・土浦駅行きのバスで、平日46本から8本、休日39本から6本に減便しました。土浦駅発・筑波大学中央行きのバスで、平日50本から16本、休日40本から3本に減便しました。

筑波大学新聞第368号（2022年1月31日発行）によると、「減便の背景には、関東鉄道の経営悪化がある」とのことで、コロナ禍で2年間赤字経営が続いていたそうです。

システム情報系の大澤義明教授が主宰する筑波大学都市計測実験室では、関東鉄道と提携し、同社からバスの位置情報や乗降者数などのデータの提供を受け、路線バスの利用分析や実証実験を行っています。

同実験室で、交通系ICカード利用履歴のデータを用いて乗車率などの研究をしている西村詩央里さん（社会工学学位プログラム博士前期課程2年）は、「大幅な減便だが、利用客全体への影響を比較的抑えられている」と話しています。

西村さんは、特につくばセンターを経由して筑波大学中央と各駅の間を移動する利用客に影響が出るとして、2020年4～9月の交通系ICカード利用履歴のデータから、つくばセンターで乗り換えが必要になった利用客の割合を予測しました。

予測方法として、ダイヤ改正前の利用客の到着場所と到着時刻の記録を基に、ダイヤ改正後にそれらの利用客がどのような経路で移動するのかを一人一人割り当てました。

研究によると、つくばセンターをまたいで筑波大学中央と土浦駅の区間を移動する人は、当区間利用者全体の1割ほど。今回のダイヤ改正により、つくばセンターで乗り換えが必要となる利

用客の割合は、土浦駅発・筑波大学中央着で当区間利用者全体の4.0%、筑波大学中央発・土浦駅着で当区間利用者全体の7.5%であったようです。このことが、大幅な減便でも利用者への影響は最大限抑えた結果であると西村さんは分析しています。

■定期券の大幅値上げ

筑波大学キャンパス内を走る路線バスの定期券が、2022年度より9500円から1万9000円に大幅値上げすることが決まりました。筑波大学キャンパスには、つくばセンター発着のバスが循環しています。右回りと左回りがそれぞれ平日は20分に1本、休日は40分に1本の間隔で走っています。加えて、先程紹介した各駅からのバスが一部乗り入れています。

交通政策などを専門とする石田東生筑波大学名誉教授の、2007年に筑波フォーラムに掲載された論文によると、キャンパス内を走るバスには以下のような過程があったようです。

現行の関東鉄道主体の循環バスが導入される前は、筑波大学独自の学内連絡バスが1977年11月からキャンパス内を走っていました。平日のみの運行で、8時から18時まで、筑波大学中央から図書館情報専門学群（現・知識情報・図書館学類）間を走っていました。学内連絡バスは、無料で利用できましたが、予算が限られていたため利便性に欠け、1便あたりの利用者数は約11人と少なかったようです。代わって、2005年8月のつくばエクスプレス開業と同時に、関東鉄道バスを主体とする現在の筑波大学循環バスの運行が開始しました。平日と休日ともに便があり、6時から23時まで、筑波大学中央からつくばセンター間を循環します。運行開始当初は、学生4200円、教職員8400円で年度末まで利用可能な定期券を購入することができたようです。その後、値段は少しずつ上がり、今に至ります。

2月2日に開かれた学生向けの説明会で、今回の大幅な値上げの理由について総務課の担当者は、「コロナ禍による利用者減少や、人件費など運営費用の増加により、循環バスを維持するのが困難になっているため」と話していました。「このままでは廃止せざるを得ない状況だが、筑波大学の地理的環境を考えると循環バスは必須であり、継続するために値上げに踏み切った」とのことでした。

■定期券で大学一周

私は1、2年時に定期券を購入しました。つくばセンター付近にあるバイト先への移動や、教室移動にバスを利用することがあるからです。

ただ、今回の値上げで2倍の値段に変わるとなると考え直さざるを得ませんでした。バイトや教室移動は、雨天時以外は自転車ですするため、1万9000円の前払いは高くつきます。加えて、各駅と筑波大学中央間のバスもキャンパス交通システムの区間内であれば定期券を使っていたのですが、その区間のバスも減便になると、よりバスの利用頻度は下がります。



つくばセンターに戻ってくる筑波大学循環バス

2月4日の16時。私は2022年3月31日までの定期券を使って、キャンパス内を筑波大学循環バスで一周してみることにしました。来年度は多分、定期券を買わないかな、と考えているので、最後に乗り放題の旅をしようと思ったのです。

16時50分、つくばセンター発の筑波大学循環左回りに乗りました。10人もいない乗車人数で、夕日の中、出発です。吾妻小学校前から天久保二丁目まで緩やかに人が乗ったり降りたり。筑波大学中央から一の矢学生宿舎前、農林技術センターはうっそうとした木々の間をバスが進みます。筑波大学の自然の景色と、揺れるバス。とても居心地が良い……と思っていたのも束の間、第三エリア前あたりから乗車人数がどんどん増えていきました。どうやらちょうど帰宅ラッシュの時間帯に乗ってしまったらしいです。そのまま人は増え続け、筑波大学病院入口で車内はすし詰め状態に。後ろには、2台ほど同じつくばセンター行きのバスが続いているのですが、ほとんどの人が前に行くこのバスに乗るため、さらにバス内の人口密度は上がります。つくばセンターの曲がり角で後ろ2台のバスの車内を確認すると、どちらも空席がある状態でした。もっとうまく使えば、前だけ満員になるのも防げるのかもしれないと思いながら、最後は身動きを取るスペースもない状態でゴール。日は完全に沈み、空は暗くなっていました。



車窓から

バスに乗ってゆるゆりとなるはずでしたが、時間を間違えたようです。定期券が切れる3月31日までまだ時間がありますし、また再挑戦してみようと思いました。

ラッシュ時の利用客数を考慮すると、循環バスの廃止に比べれば、値上げの判断は現実的なのだとは納得します。ただ、減便や値上げにより利用者が減り、さらなる減便や値上げが起きることも懸念されます。そうすると、バスを必要とする人にとっては大問題です。普段は利用しない人も、雨天時などに使いたい時に不便に感じるでしょう。

あたり前にあると思っていたものがなくなる時にその大切さに気づくと言いますが、バスの減便と定期券の値上げはそのきっかけになったのかもしれませんが。

参考資料

石田東生 (2007) 『筑波大学「新学内バス」の導入とその効果』つくばフォーラム

http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/200711_no36/pdf/323.pdf

筑波大学新聞 368号 (2022年1月31日発行)

(人文・文化学群 比較文化学類2年 山田優芽)



3. コロナ禍におけるサークル活動

秋頃はワクチン接種が浸透していったからか、少なくなっていた感染者数。ですが2022年になってからは急速にオミクロン株が猛威を振るっていますね。執筆現在、全国の一日の新規感染者数は10万人にのぼる勢いとなっています。

茨城県においては、2022年1月25日に国の「まん延防止等重点措置」（以下、重点措置）を県内全域に適用することが決定し、1月27日から2月20日までの25日間に及び実施することになり、また2月18日付で3月6日までの延長が決定されました。今回の措置を受け、筑波大学は太田圭副学長（学生担当）名で「まん延防止等重点措置の適用に伴う課外活動の自粛について（要請）」を発表し、課外活動に少し制限がかかりました。自粛を要請する活動は以下の通りです。

- (1) 県外での活動
- (2) まん延防止等重点措置の区域（又は緊急事態宣言の都道府県）の地域（茨城県を除く）からの学外者と接する活動（練習試合、指導者の招へい、合同練習等）
- (3) 合宿等の宿泊を伴う活動
- (4) 不特定の者が参加するイベントの開催
- (5) 不特定の者が参加するイベントへの参加

ですが、茨城県から2月8日に発表された「小学校の対策延長・強化、小学校以外の学校の対策強化について」に伴い、以上の自粛要請の内容を「2月11日から全ての団体活動について自粛を要請します。」に変更されました。（大会等への参加に向けて必要不可欠な活動については感染拡大防止策を遵守することを条件に認められています。）

思い返すと昨年度は重点措置や緊急事態宣言の発出により活動停止が言い渡されていたことが多かったと感じます。私事ではありますが、昨年度は学群卒業年次で、所属サークルであるミュージカル集団ESSASSAにおいて、私たちの代の卒業公演を控えて準備していたものの、サークル活動停止によって思うように練習が進まず、当初予定していたものを完成させることができませんでした。今年の卒業生には私のように悔しい思いをせずに卒業してほしいなど願っています。

現在、様々なサークルや部活動では感染対策に気を付けて日々活動に励んでいます。今の時期は芸術系のサークルでは卒業公演に向けて一層精を出して練習に取り組んでいることと思います。重点措置の開催となると様々な障害があるかとは思いますが、この調子でどのサークルも無事に公演を実施できることを祈るばかりです……

また、この季節になると追いコンもそろそろ企画されるくらいの時期となりますね。読者の皆様は学生時代の追いコンの思い出はありますか？コロナの「コ」の字もなかった時には、ちょっとおしゃれな居酒屋さんで先輩たちとお話ししたり、2次会でカラオケに行ったりしたなあ、つい最近のように思い返します。さてコロナ禍となった今、追いコンはどう変化していくのか。

私が知る範囲ではオンラインでの開催を実施している団体が多いように感じます。あるいは、会食はしたとしても従来通りの居酒屋での飲み会は避けている団体も見受けられました。以前のよ
うな追いコンの楽しさはもうここ数年は味わうことはできなくなりましたが、下級生の皆さんは
それぞれ工夫を凝らして追いコンの新しい楽しみを見出しているように思えます。

コロナ禍におけるサークル活動。やっと再開できたかと思えば、団体活動の自粛や停止の困難
が襲う、そんな状況を見ていると何となくやるせない気持ちになります。そんな中でも学生たち
は工夫を凝らして活動を維持しようと努力している様子が見受けられ、非常に感心しております。
皆様はサークルに対してどのような思い出がありますか。生きがいとして本気で打ち込んでいた
方も少なくないと思います。私自身、サークル活動を頑張っていた頃を追憶すると、辛いことや
嫌なこともありました。それも含めて全て愛おしく思えてしまいます。現在サークル活動に打ち
込んでいる学生達が卒業して何年か経った頃、「あの頃は……」と思い出すものが、悲しさや悔
しさではなく、甘美な気持ちに包まれるものであればいいなと思います。

(人文社会科学研究群 人文学学位プログラム 博士前期課程1年 磯良春佳)



4. 『ペデの今 課題と展望』(下)

筑波大生にとって馴染み深いペDESTリアンデッキ（歩行者自転車専用道路）。通学や教室移動でお世話になった思い出をお持ちの方も多いのではないでしょうか。しかし、ペデは開通から既に50年弱が経過しており、交通集中やタイルの破損といった課題も浮かび上がっています。ペデはどのように変わり、課題を解決していくのか。講じられている対策や今後の展望について施設整備課の担当者に聞きました。

■今後の補修はアスファルトで

ペデに敷き詰められているタイルには、「割れやすい」「滑りやすい」という欠点があります。特に、自転車置き場ではスタンドを立てた際に破損しやすく、破損箇所は、その都度補修を進めています。これまでは、景観上の理由でペデはできる限りタイル張りで直してきましたが、現在は試験的に耐久性に優れたアスファルトで補修しているそうです。昨年10月には筑波大附属中央図書館付近のペデがアスファルト舗装で補修されました。ただ、小さな補修であればアスファルトでも目立たないですが、大規模な補修となるとペデ全体が真っ黒になってしまうことも懸念されるため、今後対応を検討するとのことでした。

また、滑りやすいと学生などから指摘があった箇所は、滑りにくいタイルに貼り替えたりスリッパを防ぐ透明な粒状の塗料を塗ったりしています。

■花壇撤去でペデの道幅広く

交通集中の解決策として、ペデの拡幅も進められました。昨年11月、2B棟西側のペデ（約70㍍）にあった花壇を撤去し、道幅を2㍍から2.5㍍に広げました。これまでは、2C棟前の駐輪場と3B棟の駐輪場から来た自転車がペデに集中してしまっていました。今回、道幅が広がったことで、交通集中が緩和され、歩行者と自転車の接触なども大幅に減少するでしょう。しかし、ペデの幅を広げるためには既存の構造物を取り壊す必要があります。そのため、拡幅できるのは手の付けられる場所に限られ、ペデを全線にわたって拡幅するのは難しい状況となっています。



花壇を撤去し、道幅が広がったペデ（アスファルト舗装の部分が拡幅された部分）

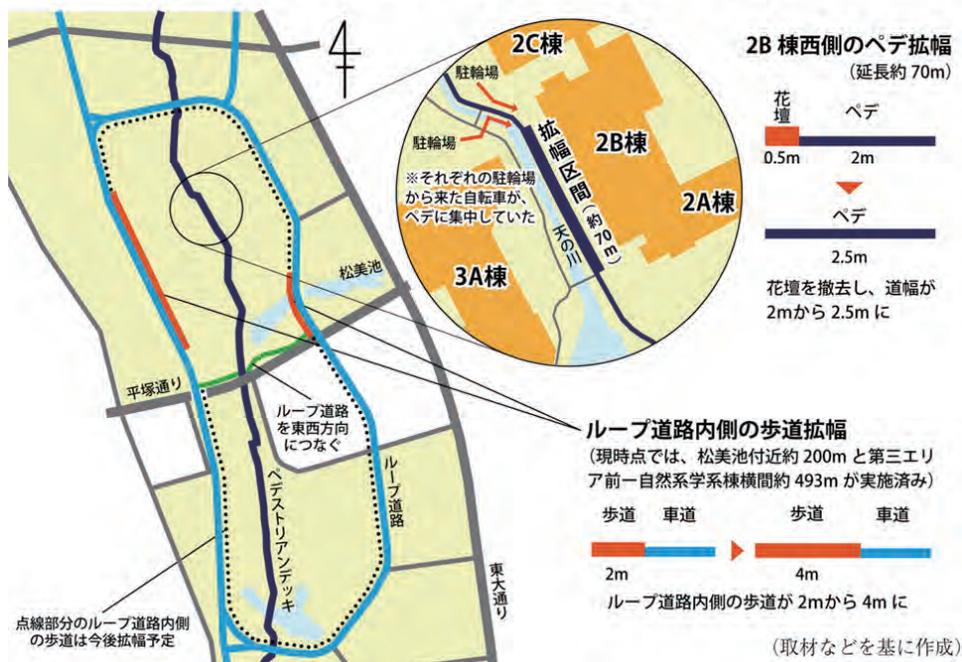
■自転車をペデからループ道路歩道へ

現在、ペデの交通集中を解消するために進められているのが、ループ道路内側の歩道を広げる事業です。これは、自転車をペデから拡幅したループ道路の歩道に誘導するもので、2021年3月に策定された施設整備に関する中長期計画「キャンパスマスタープラン2021」にも明記されています。拡幅に伴って、ループ道路の歩道沿いに自転車置き場を再配置することも計画されています。既に、松美池付近（約200㍍）と第三エリア前—自然系学系棟横間（約493㍍）が拡幅されており、2㍍の歩道が4㍍にまで広がりました。また、自転車が東西方向に移動しやすいよう、平塚通りに沿った学内の道路を整備しました。予算の関係で、歩道の拡幅工事を一度に進めるのは難しいため、今後徐々に整備を進める予定だそうです。



道幅が広がったループ道路内側の歩道
(松美池付近。交差点より奥は未実施)

近年のペデの交通集中対策



■聞いて一言

ペデのタイルの破損に自転車置き場が影響していたのは意外でした。今後は試験的にアスファルトでの補修を進めるとのことですが、タイルが破損しやすい自転車置き場のみをアスファルト舗装にすることも一つの手だと思いました。景観を守る意味で、アスファルト舗装の色をタイルと合わせれば、違和感を軽減できるのではないのでしょうか。また、舗装の色を工夫すれば自転車を置くことができるスペースを明確に区別することもできます。今後の検討に期待したいと思います。

また、現在のループ道路の歩道は歩行者のほか、自転車やランニングをする人など、さまざまな方が利用しており、2 ㍍の道幅では少し狭いと感じることがありました。これから、歩道の幅が進めば、これまで歩道を利用してきた歩行者が、より安全に通行できるだけでなく、ペデの交通集中も改善されると思います。筑波大生にとってペデは欠かせない存在です。ループ道路の力を借りるなど、時代の変化に合わせて、よりよいペデに変わり続けてほしいです。

(人文・文化学群人文学類4年 西村大祐)



4. 大学周辺でできる初詣

つくばでは「つくばおろし」がふきすさび骨身に染みる寒さとなっていますが、読者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、新年といえば多くの方が初詣に行かれると思います。筑波大生が思い浮かべる初詣先といえば、筑波山神社を思い浮かべるとと思います。ところが、現在は新型コロナウイルスの流行下。(屋外であるため「密」な空間ではないですけど)今回は、多くの人が集うであろう筑波山神社以外の初詣先を発見してみたいと考えました。そこで、白羽の矢が立ったのが、一ノ矢八坂神社です。

一ノ矢八坂神社(つくば市玉取 2617-1)は筑波大学馬場の少し北にあります。車を持っていない筑波大生にも自転車で行きやすい場所にあります。境内は東大通りから少し脇道に入ったところにあり、東大通りを走る車の音が遠くに聞こえます(①)。境内の建築物のうち、素戔鳴尊(すさのおのみこと)が祀られる本殿は茨城県指定の文化財、拝殿・覆屋はつくば市指定の文化財となっています。そして、意外に思われる方もいらっしゃると思いますが、最近のご時世にぴったりな疫病除けのほかにも、海上守護を祈願する人々の信仰も集めており、遠くから漁業関係者の参拝者も少なくないそうです。



①一ノ矢八坂神社 (筆者撮影)

一ノ矢八坂神社は、859(貞観元)年に山城国(現在の京都府)から勧進されたと伝えられています。平安時代には、平将門の乱を鎮圧した藤原秀郷が門征伐のために弓矢を奉納し、戦勝祈願をおこなったとも伝えられています。また、鎌倉時代以降は、近隣を治めていた小田氏に篤い崇敬を集めていましたが、室町時代の戦乱の際に社殿を消失してしまいました。そして、安土桃山時代に再建され、その後改修が繰り返されながらも、現在に至っています。

ところで、一ノ矢八坂神社の名前の由来になった昔話をご存知でしょうか。『大穂町のむかし話』によると以下のような由来があるそうです。

昔この土地に一羽のカラスが飛んできて、農作物を荒らして困っていた。百姓たちはなんとかしてこのカラスを射止めて、せっかく骨を折って作っていた作物を守ろうと相談した。そこで弓の名人が集まって、カラスを射止めることになった。百姓たちが集まったところを「天矢場」という。そして一の矢で射落としたりとしたところに一の矢天皇を祀り、二の矢で射落としたりとしたところに二の矢天皇をお祀りした。射落とされたカラスは足が6本もあり、玉を持っていたので、この地を玉取村と呼ぶようになった。（「一の矢と二の矢」より）

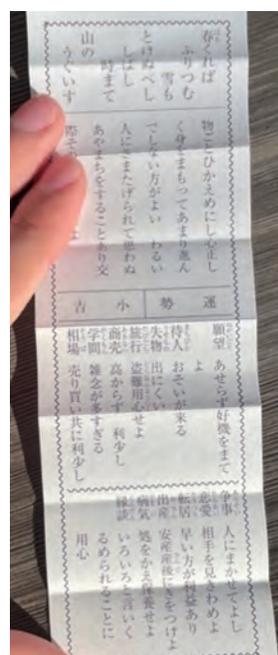
「一の矢天皇」や「二の矢天皇」が何を意味するかは私にはわかりませんが、現在も残っている「玉取」や「一の矢」の名前の由来が示されており、とても興味深く感じました。

さて、一ノ矢八坂神社といえば、有名な祭礼に「ニンニク祭り」があります。これは、疫病の流行する夏に行われる祇園祭で、毎年旧暦6月7日に行われます。御祭神「素戔鳴尊（スサノオ）」が朝鮮から持ち帰ったニンニクに厄除けの力があつたとの伝えにちなんでいるそうです。祭りでは、無病息災・家内安全を神前で祈祷した疫病除けに御神徳がある「ニンニクお守り（御霊葎）」が、配られ、お参りした人達はニンニクが袋に入ったままの御守りを軒端や天井に吊すなどして厄除けとします。

昔、アルバイトで訪れたことのある、お年寄りの家の軒先にもこのニンニクお守りが吊るされており、当時は不思議に思ったものですが、謎が解けました。今でも、一ノ矢八坂神社が周辺住民の信仰を集めている様子が窺えます。

さて、一ノ矢八坂神社に関するエピソードを述べてきましたが、肝心の初詣です。本殿に二礼二拍手一礼で今年の健康と修士論文がうまく行くようお願いしました。帰りに引いたおみくじは、「小吉」で学業は「雑念が多すぎる」(②)。なかなか上手いようにはいかないものですね。

1年間筑波大学の近くやちょっと遠くをお散歩する企画を連載してきました。普段何気なく過ごしている地域にも少し解像度を高めてみれば興味深い事象があちらこちらに転がっているものだと思いますが、この連載が少しでも地域への解像度を高めるきっかけになれば幸いです。1年間おつきあいいただきありがとうございました。



② 筆者の今年の運勢

参考文献

大穂町史編纂委員会 1989. 大穂町史. つくば市大穂地区教育事務所.

佐野春介 1980. 大穂のむかし話. 筑波書林.

一ノ矢八坂神社ホームページ 〈<http://www.yasaka.or.jp>〉 (最終閲覧日 2022 年 2 月 5 日)

(生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム前期 1 年 中村瑞歩)



編集後記

今号もお読みいただきありがとうございます。編集長の中村です。記事執筆中の 1 月は、つくば市でも雪が降り冬本番でしたが、本編集後記を執筆している 2 月下旬では、花粉も飛び始め春の足音が聞こえてきました。

今号ではキャンパス内の交通を取り上げた、『あたりまえではなかった…。キャンパス内を走るバス』と『ベデの今 課題と展望』(下)、つくばの冬を取り上げた『筑波大学雪景色』と『大学周辺でできる初詣』、続くコロナ禍でのサークル活動を取り上げた『コロナ禍におけるサークル活動』と盛りだくさんの内容になりました。

現メンバーでお送りするのは、今号が最後となりましたが、来年度も引き続き、つくばでの生き生きした生活をお届けできればと思います。1 年間お読みいただきありがとうございました。そして、来年度もよろしくおねがいたします。

(生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム前期 1 年 中村瑞歩)



Twitter、Facebookで筑波大学の情報を発信しています

事業開発推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けてTwitter、Facebookでも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。



- 🌀 筑波大学大学基金 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>
- 🌀 筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」 <https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/>
- 🌀 日経VR「オープンキャンパス360～筑波大学～」
https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/NIKKEI_VR/



Tsukuba Futureship (筑波大学) Facebook



TSUKUBA FUTURESHIP (筑波大学公式) Twitter



つくばのお土産「つくば茶寮」を販売開始!!

筑波大学とつくば市の洋菓子店「コート・ダジュール」が共同開発した「つくば茶寮」を2021年12月に販売を開始しました。

つくば茶寮は本学の坂本和一健幸イノベーション研究開発センター長（生環系准教授）と猿島茶を栽培する野口熊太郎茶園（茨城県境町）の共同研究の成果を元に開発した商品で、パッケージデザインは本学大学院生の王旭驊（芸術P2年）によるものです。売上の一部は本学に寄附され、学生支援のために使用されます。

つくば市、筑波大学のお土産として、是非ご活用ください。



販売価格	3個入り	530円（税込み）
	5個入り	1,000円（税込み）

販売店舗

■コート・ダジュール本店

つくば市東新井 19-26

■ドゥレット店

つくば市研究学園 1-2-6

■イオンつくば店

つくば市稲岡 66-1 イオンつくば 1階

■オンラインショップ

https://shop.cake-cake.net/la_cotedazur/index.phtml



コート・ダジュールHP



コート・ダジュール
ONLINE SHOP

- 編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ
- デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
- ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
TEL：029-853-2030 FAX：029-853-6576



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。 ©2022 University of Tsukuba.

「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから
筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』

配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします
登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>